青い青い海（1935）

U SAMOVO SINEVO MORYA

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 ウクライナ
色彩 B&W
時間 71分
初公開日 1992/12/19
公開情報 国際シネマ・ライブラリー提供／シネセゾン

【解説】

愛らしいカスピ海の真珠。６０年も前に作られたお話をつい昨日のできごとのように感じさせる、このみずみずしさはいったい何の産物だーーなんてしかつめらしい考えは抜きにして、バルネットの驚くべき映画話術の才にすっかり胸を預けていただきたい。

大嵐で船が難波し、アリョーシャ（クリューチコフ）とユフス（スヴェルドリン）はある小島の漁業コルホーズの漁民たちに救けられる。この若い二人は、実はそこへ派遣された機関士だったのだ。美しい娘マーシャと出会い（いきなり歌い出す彼女の可憐さ！　いっぺんに仲良くなってしまう三人をそれで表現してしまう）、二人は彼女を競り合う。アリョーシャは仕事をほったらかし、遠い町へネックレスと花を買いに行く。友の裏切り行為に怒ったユフスは彼を集会で糾弾する。漁に出て、二人がマーシャと話し合おうとした時、突然の嵐で起こった大波が彼女をさらってしまう。その葬式の際中、ふと海を眺める二人。するとどうしたことだろう、波間に漂着物と共に浮かぶマーシャがいるではないか！　一気に哀しみの場は祝祭空間に変わる（その弾むような楽しさ）。今度こそ二人のうちどちらの妻になるかを聞けば、マーシャの答えは素っ気ない。太平洋艦隊に勤務中の同郷の恋人がいたのだ。同時にふられた親友同士は仲直りし、友達としてマーシャに別れを告げ、次の漁場へと去っていくのだった……。

当時バルネットの妻で後にミハイル・ロンム夫人となる、ヒロインを演じたクジミナの鋭角的なキュートさがたまらない。ソ連を、いや、世界を代表する二大監督を虜にしただけのことはある豊かな個性の持ち主。この映画を観た者のすべてが彼女に夢中になってしまうはずだ。

【クレジット】

監督	ボリス・バルネット	Boris Barnett
脚本	クリメンティ・ミンツ	
撮影	ミハイル・キリロフ	
音楽	Ｓ・ボトツキー	
出演	ニコライ・クリューチコフ	Nikolai Kryuchkov
	レフ・スヴェルドリン	
	エレーナ・クジミナ	Yelena Kuzimina

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.